

平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

<調査研究報告書タイトル>

放課後児童支援員等に求められる専門性及び資質向上のあり方に関する調査研究

<実施主体名>

社会福祉法人葛葉学園

放課後児童クラブでは、量の拡充に加え、質の確保等、多様なニーズへの対応が課題となっている。「社会保障審議会児童部会放課後児童対策に関する専門委員会」においても、今後の放課後児童クラブのあり方を含め、放課後児童対策について検討が重ねられてきているが、「これまでの議論を踏まえた論点整理と検討の方向性」の中では、放課後児童クラブに従事する放課後児童支援員には、放課後の子どもの生活を保障する観点から、プレイワークの専門性（特に小学校低学年における遊びの意義の理解、実践等）、保護者支援の専門性、ソーシャルワークの専門性が求められることが提示され、放課後児童支援専門員等の専門性を培うための方法について、検討する必要があるとされている。そのため、本調査研究事業では、放課後児童支援員等に求められる専門性の把握と整理を行うとともに、初任者（1～5年未満）、中堅者（5年以上）ごとに、放課後児童支援員等に求められる専門性を向上させるために必要な研修の具体的な内容を整理し、研修体系のあり方について提言することを研究事業の目的としている。

調査研究では、①放課後児童クラブ及び自治体における資質、専門性向上のための研修状況の把握、求められる専門性研修体系の概要②登録児童の活動状況及び満足度③保護者の認識及び放課後児童支援員等に求めること④放課後児童支援員等に求められる資質及び専門性等を明らかにするため、アンケート調査及びインタビュー調査を実施し、社会調査の結果に基づいた研修体系モデルの提示を行った。社会調査の結果、放課後児童支援員等の専門性を向上させるために必要とされる研修内容については、「特に配慮を必要とする子どもの理解（81.1%）」、「子どもの発達理解（80.3%）」、「障害のある子どもの理解（77.7%）」、「保護者との連携・協力と相談支援（77.7%）」、「安全対策・緊急時の対応（76.5%）」を選択した放課後児童クラブが70%を超えており、これらの内容を含む研修の企画立案、実施が求められることが明らかになった。現在実施されている研修について、平成29年度に実施した自治体主催の放課後児童支援員等の研修を予算、日程、内容の充実度等に分けて分析したところ、平均値が最も高かった項目は「研修内容は充実していた（平均値2.93）」であり、都道府県、市区町村ともに同様の傾向が見られた。人口規模でみた場合、人口規模の多い群の方が放課後児童支援員等に対して多様な知識、技能を求めている傾向があり、人口低位群の放課後児童クラブへの支援が重要であることが示された。放課後児童クラブを利用する登録児童の評価は概ね良好であった。保護者の評価も高く、職員間の信頼関係の構築、人材育成、方針や目標の浸透度が保護者の意識、評価に影響を与えていることが示された。放課後児童支援員等の人材育成において、強化すべき専門性や資質は各放課後児童クラブで異なることから、各放課後児童クラブでカスタマイズ可能な研修体系モデルを作成できるように各階層別（採用時に求める姿、初任者、管理者、管理職）に56の知識技能と研修カリキュラムを配置した。さらに、研修体系のモデルと知識技能を定着させるための補助教材の一例とした16の研修活用シートを作成し、最後に放課後児童支援員等の専門性及び資質向上のための提言を行った。